

令和7年度 学習療法委員会の取組

社会福祉法人 芦別慈恵園
経営係 リーダー 松井恵莉

委員の皆さん1年間ありがとうございました～(^^)/

この発表を通してみなさんにお伝えしたいこと

学習療法は平成18年 介護職員の
「お客様と向き合う時間が欲しい」
という声から取り入れました。



この発表を通してみなさんにお伝えしたいこと

当時とユニットの状況は変わってしまいましたが、
学習療法のもつ“よさ”や“効果”は変わりません。

学習療法のもつ“よさ”や“効果”に気付く
きっかけになればと思います。

～年度目標～

「お客様の楽しみになる学習療法を目指す」への取組

①交流会

②新しい取り組みについて



交流会

令和7年6月7日 家族交流会
5家族6名ご参加



令和7年11月29日 施設間交流会
3施設7名ご参加



家族交流会

～ 目的 ～

- ・ご家族に学習療法を知っていただく
- ・ご家族にお客様の様子をご覧いただく
- ・ご家族と懇談し交流を深める

家族交流会

実際の
支援の様子を
間近でご覧いただく



家族交流会

脳センサーを
使用した
すうじ盤 体験



家族交流会

グループに分かれ
懇談
最近の様子をお伝えし、
昔の様子を伺う



施設間交流会

～ 目的 ～

- ・他施設の取組・工夫点を知る
- ・他施設と交流し横のつながりをつくる

施設間交流会



事例発表

施設間交流会



すうじ盤100
選手権

～参加者の方の感想～

- ・コミュニケーションツールとしてとてもよかったです。
- ・職員でも大変なことをお客様は毎回行ってすごいなと感じました。

施設間交流会



グループに分かれ
懇談

交流会に参加した感想

家族交流会

- ・ご家族と直接話せて、普段の様子を伝えられた。
- ・学習療法を理解してもらえた。
- ・ご本人の状態を確認してもらえる良い機会になった。
- ・体調不良で参加できなかった職員からは「残念だった」という声も。

施設間交流会

- ・すうじ盤ゲームで和やかに交流できた。
- ・他施設の取組や事例発表がとても参考になった。
- ・ディスカッションだけでなく、PowerPointで取組を見られたのが分かりやすかった。
- ・活発だった施設の活動が減っているのを見て、「諦めずに続ける大切さ」を改めて感じた。

令和7年度の新しい取組について

昨年までの学習支援の状況

学習者数…特養28名、かざぐるま10名、複合型38名

・学習療法の基本である支援回数の確保

複合型は**利用日に支援の定着**ができているが、
特養とかざぐるままでは**目標回数の月7回の達成が難しい**状況。

・学習診断…**定期的に行うのが推奨**されているができていない。
正しい学習療法のありかたに近づきたい。

支援回数・学習診断⇒実施方法の検討を行う

令和7年度の新しい取組について

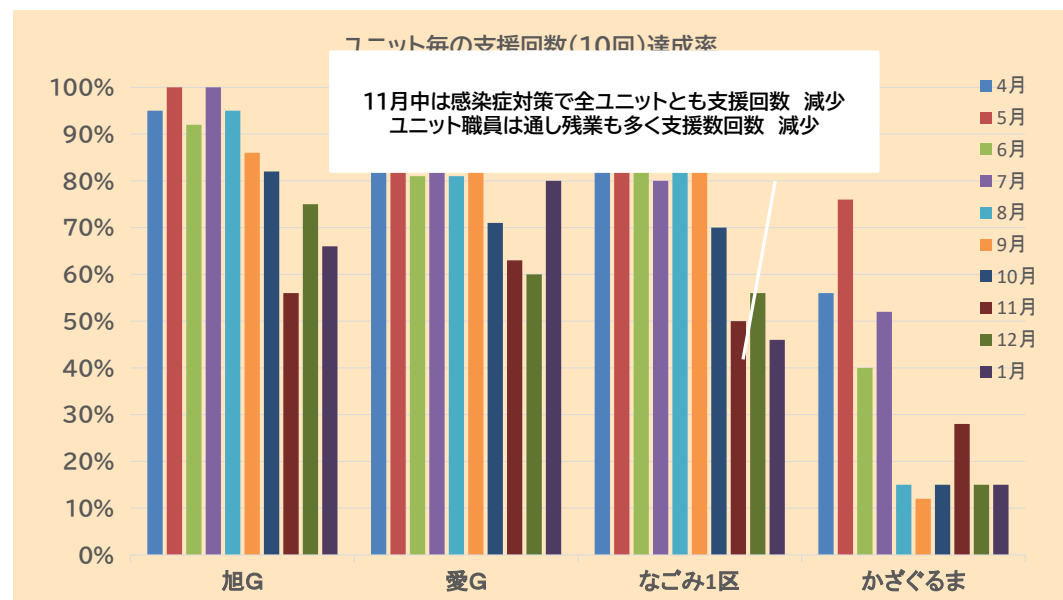
今年度から特養とかざぐるままで変えたこと

☆複合型はこれまでどおり**利用日に支援**を継続

①**隔月支援**…ひと月の学習者数を減らし、月の支援回数を充足させる
学習者数28人×目標回数7回＝196回の支援が必要
⇒学習者数14人×目標回数10回＝140回の支援に変更
29名の実践士一人につき月5名(2対1なら3コマ)の支援が必要
この回数なら達成できるかも！という思い

②**定期的な学習診断**…データをとり、比較する

年間で診断予定を立てた



隔月支援を行ってみて…

隔月支援の弊害

- ・楽しみにしているお客様にとって1ヶ月あくことが本当に良かったのか
- ・体調が良い日や離床しているタイミングでも
「今月は対象月ではないから実施しない」というもったいない日も…
- ・「昨日もやったよ」という職員の声に実施をためらってしまう場面があった
- その他…実践士のうち全員が実施できているわけではない現状
(全実践士が月に5名の支援をすることで達成可能な回数設定)

仕組みが職員を迷わせてしまう部分があった…

でも できなかったことだけじゃない！
法人全体では出来たことや気付いたこともあります！

- ・習慣化
◎デイサービスでは「来たら必ず学習」が定着し、
「まだやらないの？」とお客様から声が出るほど習慣化。
- ・興味・意欲向上
◎学習を見て、やっていない方も興味を持つようになった。
- ・コミュニケーションスキルアップ
◎新人職員も楽しみながら関わり、会話の時間が増えた。
- ・学習を通して(職員より)
◎親密さが増した◎信頼関係が深まった◎会話に厚みが出た

おかげさまでのこの年になっても
元気にやらせてもらってます。
やっぱりこれ(学習療法)がいいんだろうね。
テレビ見てるだけ
じゃぼーとしちゃうからね。



頭の体操が大好き。
声をだすとシャキッとする。
えがお塾でのお友達との思い出もある。
これからもよろしくね。

気付いたこと

- ・コミュニケーションのスキル不足に気付く
⇒ 学習が好き・苦手はお客様ごとに違うため、どう関わるかが課題
- ・「行くのが嫌(面倒)」なだけで、「学習が嫌」ではない方もいる
⇒ 離床介助や声かけの工夫で参加につながった。
- ・継続の大切さ
⇒ 続けることで良い変化が見られると実感した1年だった。
- ・優先度が低い
⇒ 忙しく、職員が支援に入りにくい現状も課題。

良かったことは継続し、課題にはどう取り組むか...

お客様の变化

身体

- ・学習の調子が悪い時は、体調不良や転倒の予兆として出ることがあった。
- ・介助が必要なかったが、靴下を自分で履くなど自立した動きが見られた。
- ・久しぶりにスプーンをご自分で持って食べる姿が見られた。

お客様の变化

認知
・
意欲

- ・「大分来なかったね」と声が出て、時間の感覚が保たれている。
- ・学習後に発語が増える。
- ・学習後には声が出る、表情が明るくなる、瞳がキラキラする。
- ・思い出話をたくさんしてくれるようになった。
- ・「嫌だわ」と言っていた方にも笑顔が増えた。

お客様の变化

支援者
の
学び

- ・脳が活性化するタイミングは人それぞれ違う。
→ その人に合った声かけ、待つ姿勢が大切。
- ・数字盤のレベル変更(100→50など)がスムーズにできた例もあり、状態に合わせた調整の大切さを実感。

令和7年度の取り組みへのまとめ

学習療法は
人と人との関係を深め、笑顔と会話を増やす力がある

今年度は
「学習療法をどう続けるか」仕組み作りに挑戦

新しい取り組みでは
グループ分けや隔月実施にはメリットもあったが
実施しづらさや迷いも生まれた

令和7年度の取り組みへのまとめ

一方で、課題もはっきりとしてきた

- ・支援回数を安定させること
- ・支援に入りやすい体制づくりが必要

令和8年度は

ユニットの中を整える一年に

- ・まずはユニットの中を整える
(休憩時間をとる・残業を減らす)
- ・本体・かざぐるまは宿題形式のお客様は継続
そのほかのお客様は一旦おやすみ。
そしてマスターで今後実施できる形を検討していく
(いつから・何人なら無理なく支援できるのか⇒できれば下半期～)

令和8年度は

学習療法の魅力を改めて知る・伝える一年に

現在の実践士の多くは
学習療法でお客様が変化した事例を知らない…？
(魅力が伝わりきっていないのではないか?!)
それが支援回数にも現れているのか？

- ・学習療法研修として行う
↓
- ・学習療法での変化事例を紹介
・脳センサーの動画を、多くの職員に見てもらう機会を作りたい。
(実践士研修で、脳センサー動画を活用すると理解しやすいかも)

